

木もれびの森の歴史

近世までの相模原台地は「相模野」の呼び名のとおり、原野の広がる入会地（共同の草刈場）でした。江戸時代の新田開発により農地として開墾されましたが、水の便も悪く、土地が痩せていたため農作物があまり育たず、替わって炭焼きのためのクヌギ、コナラの植林が行われるようになりました。こうした雑木林が残っているのが「木もれびの森」です。伐採した幹は薪や炭、落ち葉は肥料に、小枝は燃料にと、人々の生活と密接なかかわりを持っていました。

時代は進み、生活様式の変化に伴い雑木林の利用はなくなり、手入れされなくなった森は荒れてゆきましたが、今再び、現代人の健康志向と、心のよりどころとして雑木林が見直されています。

木もれびの森の管理

多くの民有地が含まれていますが、市と使用貸借契約の結ばれた土地は市が保全管理を行っております。その一部をボランティア団体の活動にゆだねている場所もあります。



お願い

- ・樹木や植物の保護のため、散策路以外へは立ち入らないでください。
- ・木もれびの森には手入れをすることにより、本来あるべき雑木林の植物が育ちます。森の貴重な植物はその土地でしか長生きできませんので、持ち帰らないでください。
- ・外来種や園芸植物を森に植えないでください。
- ・イヌのフンは持ち帰りを。また、イヌを放すのはやめてください。



木もれびの森を、将来にわたり生命豊かな森として存続させるために、多くの皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

交通(バス)のご案内

* 古淵駅から

- 北里大学病院行(ゴルフ場前経由)
→大野台入口バス停

* 相模大野駅北口から

- 相模原駅南口行(鶴野森、ホール・鶴野森経由)
→大野小学校入口バス停

- 北里大学病院行(大沼、ホール・大沼経由)
- 相模原駅南口行(大野台、北里大学、ホール・北里大学、ホール・大野台経由)
- 麻溝車庫行(ホール・北里大学経由)
- 光が丘一丁目行(ホール・北里大学経由)
- 上溝行(古山、ホール・古山経由)

→大野台入口バス停

古淵駅から相模原中央緑地まで

距離 約1.5 km 徒歩 約20分



お問い合わせ先

相模原市環境共生部水みどり環境課
〒252-5277 相模原市中央区中央 2-11-15
電話 042-769-8242(直通) ・754-1111(代表)

※表紙の写真提供 椎橋 正氏

木もれびの森とは

市街化の進む相模原台地上に残されたまとまりのある樹林地で「相模原近郊緑地特別保全地区※」に指定されています。(73ha)

麻溝台、大野台、大沼地区に広がる、クヌギ・コナラを主体とした平坦な樹林地は、首都圏では貴重な存在であり、相模原市のみどりの拠点として重要な役割を持っています。これは、都市住民はもとより、野生の動植物にとってもかけがえのない緑地です。

※首都圏近郊緑地保全法による、良好なまとまりのある緑地で、将来にわたり保全すべき緑地

木もれびの森 保全・活用計画



市では、将来にわたって木もれびの森の自然環境を低下させることなく保全するとともに、さらに有効に活用するために、木もれびの森基礎調査を行い、計画策定検討会議を設置し、森の抱える課題を整理・検討し提言としてまとめ、それを受けて森の保全と活用の基本的な考え方と方向を示す「木もれびの森保全・活用計画」を策定しました。

スズメバチに注意して下さい

8月から10月の期間は、スズメバチなどが攻撃的になりますので、散策等で利用する際には以下のことに注意して下さい。

- ・黒っぽい服装は避け、白色の帽子や長袖等の服装を着用し、香水などの使用は控えて下さい。
- ・スズメバチが周りで飛びまわっている時は、警戒していますので、慌てずに低い姿勢で静かにその場を離れて下さい。「カチ、カチ」という警戒音を出している場合は、特に危険ですので、急いでその場を離れて下さい。手や棒などで追い払うと、かえって興奮して攻撃してきます。
- ・オオスズメバチは、土中や樹洞に巣を作りますので、枯れ木や切株などを蹴ったり、動かしたりすることはやめましょう。
- ・スズメバチに刺されたら、すぐに救急車を呼ぶか、刺された部分を両手の指で強くつまんで毒を絞り出しながら水などで洗い流し、そのまま病院で処置を受けて下さい。



木もれびの森



2 畑地かんがい用水大野支線 (相模原市登録有形文化財)

畑地かんがい用水は、戦後、食糧難を補う食糧増産のため、県営事業として昭和38年に完成しました。しかし、その後の食糧事情の好転や都市化により、十分に機能しないうちに使われなくなってしまいました。現在そのほとんどは、「相模緑道緑地」として整備されています。



1 相模原中央緑地

木もれびの森の核として整備されたところで、散策路や広場、トイレなどが設置され、都市公園として位置付けられている場所です。林内の樹木の中には、それぞれの木にちなんだ「万葉の歌」の歌碑が建てられているものもあります。



ボランティアや近隣住民による活動

木もれびの森では、ボランティアや近隣住民の皆さんにより、保全活動や清掃活動が行われ、適度な間伐・除草や不法投棄物の回収などが行われています。

※写真提供「NPO法人相模原こもれび」

シジュウカラ



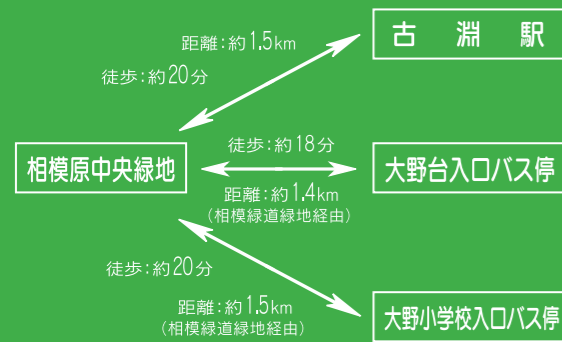
コゲラ

シジュウカラとコゲラは、木もれびの森の代表選手。この2種は四季を通じていつでも見ることができます。(留鳥)

※写真提供「東林野鳥の会」

散策案内

*歩行速度は80m/分で計算しています



子ども達による活動

近隣住民とともに小中学生が清掃活動を行っている様子です。その他、ボランティア団体の作業に参加するなどの緑地保全活動を行っている子ども達もいます。また、木もれびの森は、環境教育の場としても活用されています。



キンラン

4月末～5月、手入れされた森の中、黄色い花が目立つランの仲間。盗掘により激減してしまいました。 ※写真提供「近隣の緑地を歩いてみる会」



キツネノカミソリ

8月中頃、薄暗い林の中にオレンジ色の花が咲きます。ヒガンバナの仲間。 ※写真提供「近隣の緑地を歩いてみる会」